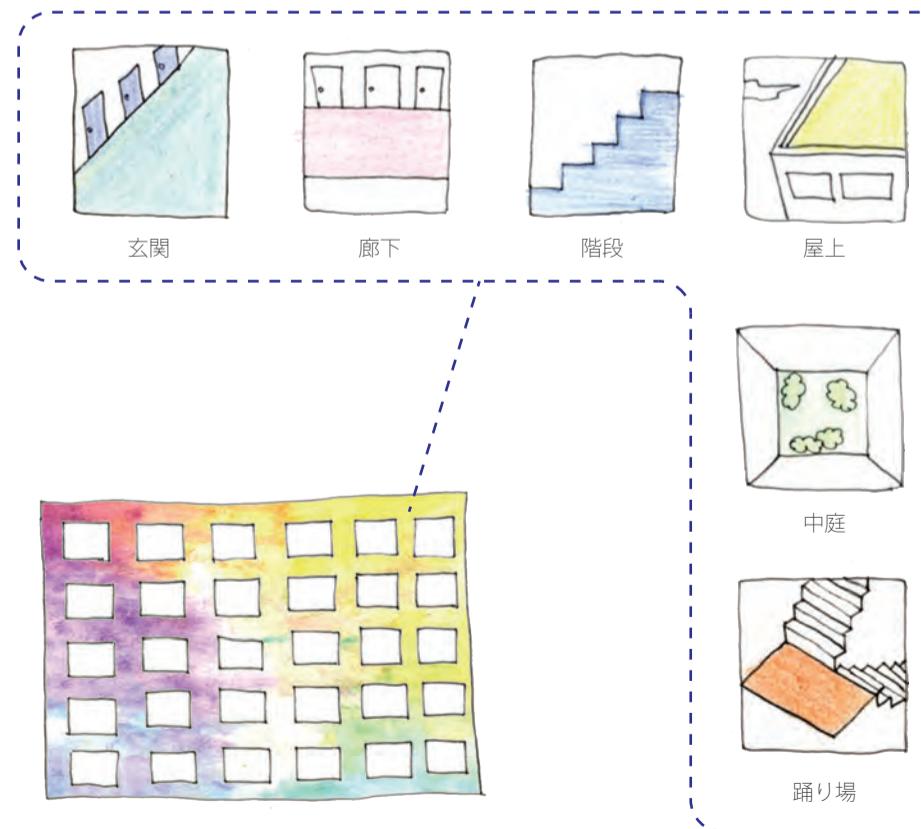
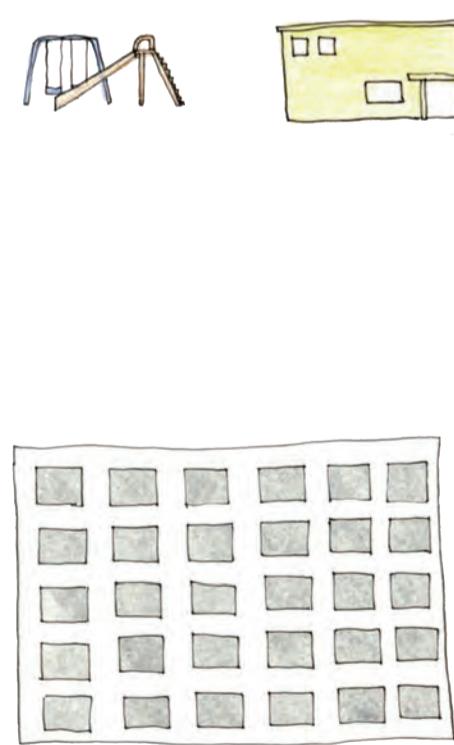


つくえのしま

たくさん的人が同じ場所に住まうマンション。しかしそこでの一人一人の住まい手の生活は自分の部屋で完結しています。そしてそこにたくさん的人が集まって住んでいるということがその人の生活に何か特別な影響を与えていたとは感じません。

私はマンションに住まうということは自分の部屋に住まう事ではなく、みんなでマンションという同じ場所を感じ合いながら暮らし合う事だと考えます。これは自分の部屋だけでなく、その外側に至るマンション全体が生活の場になってゆく提案。壁や床から生えた不器用に小さく欠けた机がきっかけとなり、一人では創れない、みんなだから創ることのできる豊かな風景を生み出してゆく物語です。

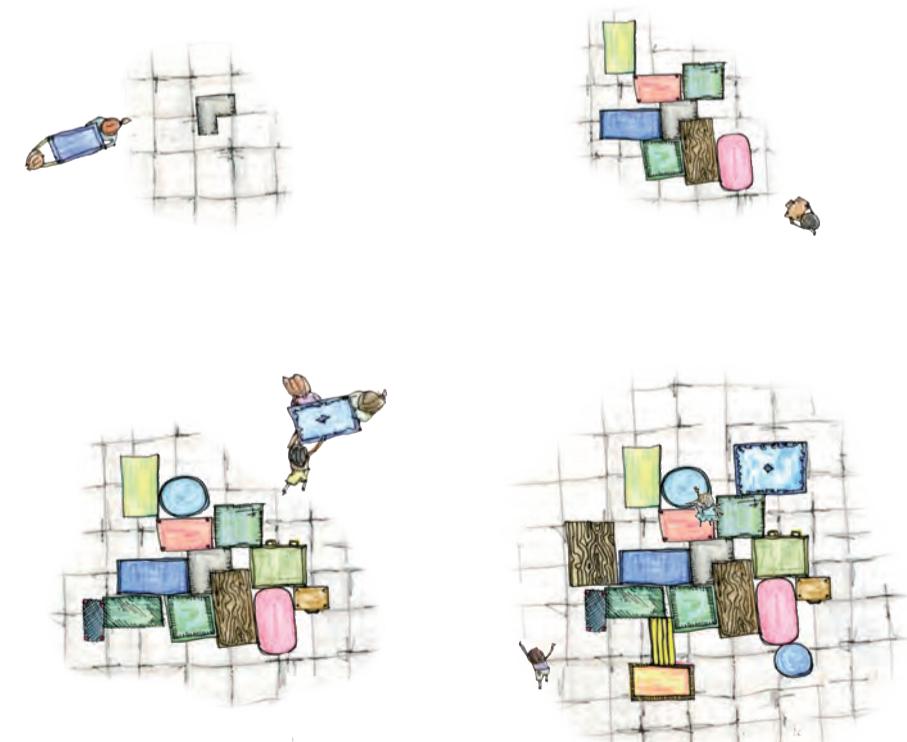
▶ 生活の断片をマンションにばらまく



現在のマンションは似たような間取りの均質化した貧しい部屋で出来ており、住まい手はその中で生活します。しかし彼らは自分の部屋と職場や学校といった場所を行き来する中で都市の中にたくさんの居場所を見つけています。職場近くのよく行くカフェや学校帰りによる図書館、帰り道の商店街。そんな生活の断片が都市にはあふれています。

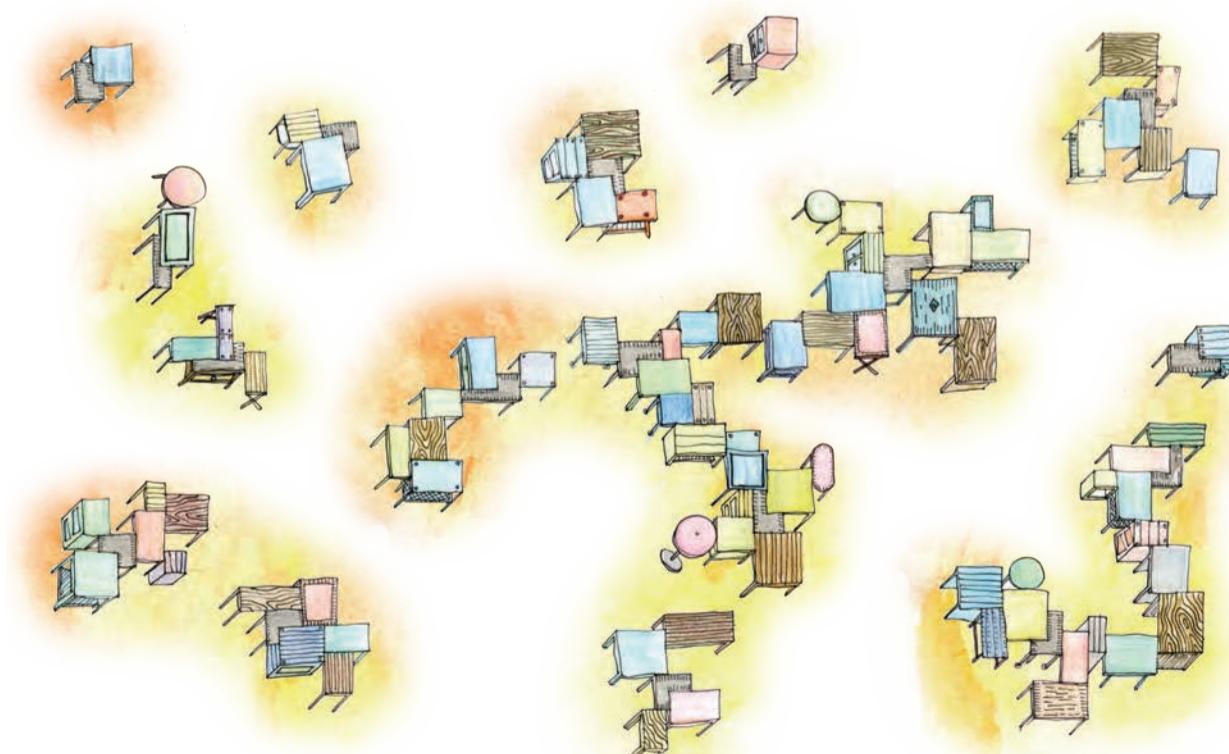
そこで自分の部屋のすぐ外にある本来一番身近にあるマンションの廊下や階段、玄関や中庭といった場所に、そういう生活の断片を見いだせないかと考えます。自分の部屋に住まうのではなく、マンションの至る所にある自分の居場所に住まうというスタイルはマンションを小さな都市に変えます。

▶ きっかけをもたらす机と成長を続ける活動の場



自分の居場所が部屋だけでなく、実は部屋のすぐ外にあふれていると気付かせる小さなきっかけとして、不器用に欠けた小さな机をマンションの床や壁から生やします。この机がよりどころとなり、自分の部屋だけでなく部屋の外へだんだんと住まい手達の生活があふれてゆくことを想像します。

▶ 偶発的な出会いをもたらす机の島



マンションにあふれた家具。そこでは均質化した部屋の中の生活では絶対出会うことのなかった人や出来事、物質に偶発的に出会い可能性にあふれています。そこに住まい手達の生活の断片が拡散し、時には混ざり合い、時には変化し、同じ場所を感じ合いながら暮らし合います。それは同じ場所に集まって住んでいるからこそ生まれる風景です。